

北前船

陸上の貿易ルートに加えて、小浜港は海上貿易に非常に適した位置にありました。江戸時代（1603年～1867年）および明治時代（1868～1912年）に、小浜は北前船の寄港地でした。これらの船は大阪と北海道を結んで行き来しました。昆布とニシンは若狭地方に持ち込まれ、若狭瓦は特に寒さに強く、航行する際に安定させるための重しとして船に積まれていました。今日でも、それは北海道の小樽運河沿いの倉庫の屋根で見ることができます。